

特別解説

IFRSを任意に適用して有価証券報告書を提出する我が国の上場企業の概要

はじめに

2010年3月期に日本電波工業が我が国の企業で初めてIFRSを任意に適用して有価証券報告書を作成・提出してから10年以上が経過し、現在は、IFRSを任意に適用して有価証券報告書を作成・提出する日本企業（以下「IFRS任意適用日本企業」という。）は200社を超えるまでになっている。

本稿では、2021年3月末日現在のIFRS任意適用日本企業を様々な切り口から分類し、調査分析をしてみたいと考えている。

今回の調査対象とした企業

今回の調査対象とした企業は、2021年3月31日時点でIFRSを任意に適用している我が国の上場企業226社とした（2021年3月期末からIFRSを任意適用する企業までを調査対象としている）。

なお、IFRSを任意に適用して有価証券報告書を提出している非上場企業（例：ダイナムジャパンホールディングス）は今回の調査対象から除外した。

また、IFRS任意適用日本企業のうち、グループ内での再編等により、現在までに上場廃止となった企業についても後述している。

IFRS任意適用日本企業の決算期

まず、調査対象とした226社の決算期の分布を調査したところ、表1のとおりとなった。

全体のほぼ3分の2の企業が3月決算であり、12月決算の企業は2割強であった。

また、4月、7月、10月及び1月決算のIFRS任意適用日本企業はなかった。

なお、電通グループや花王、横浜ゴム、JTなど、IFRSの任意適用を一つの契機として決算期を3月から12月に変更した企業も少なかった。

【表1】IFRS任意適用日本企業の決算期の分布

決算期	企業数
3月決算	149社
4月決算	0社
5月決算	1社
6月決算	6社
7月決算	0社
8月決算	1社
9月決算	9社
10月決算	0社
11月決算	1社
12月決算	50社
1月決算	0社
2月決算	9社
合計	226社